

東北地区納税貯蓄組合連合会長賞

税について考えたこと

福島市立西信中学校

三年 古川 研太

中学生になってからなるべく新聞を読むように心掛けています。税について最近よく目にしたのは、消費税をめぐる問題だ。身近なところでは、教科書の裏にも、これは税金によつて無償で支給されていると書かれています。

そこで、税について興味を持ったことを調べてみた。

まず、興味を持ったのは税の歴史についてだ。三世紀、卑弥呼のいた時代から収穫の一部を税として納めていたそうさ。今のようない現金での納税が主流になったのは明治時代。また、現在のようない税のしくみができ始めたのは大正から昭和初期にかけてだそうさ。

歴史の教科書を見ても、租・庸・調・雑徭、年貢、冥加金など税金を表す言葉が数多く出てくるが、どの時代においても税金は社会の

しくみを支える重要な要素だったことがよくわかった。

次に興味を持ったのは、地方独自課税についてだ。僕の住んでいる福島県には、森林環境税という地方独自課税がある。この森林環境税は、県土の七十パーセントを占める森林を保全し、それを将来の世代へとつないでいくことを最大の目的とし、森林に関する様々なことに使われている。

僕はこれまで、徴収した税金はすべて、最後に国や県や市単位で一つにまとめて、それを予算に応じていろいろなところに振り分けて使っていると思っていた。しかし、税の中にはこのように使う目的を限定して集める税金もあることを知り、驚いた。

僕は小学校六年生のときから、福島市を流れる荒川でカジカの子息調査をしている。川での調査だが、川に行くまでにその周辺の森林の様子も観察してきた。また、荒川は大雨が降るたびに茶色い泥水が流れ、その様子が激変する。カジカは、浮石が多い環境を好んで生息する魚なので、石の隙間が土で埋まっ

てなくなると、生息数は減ってしまう。その時に考えさせられるのが、森林と川の関係だ。山が雨水をしっかりと吸収し、土を抱え込むことで濁流を抑えることはできないだろうか。

荒川は吾妻の山々の間を流れ落ちてくる。カジカを捕まえながら、荒川は山々をつながっている川なのだ実感している。森林を保全することは、川や川に生きる生物たちも保全することにつながると思う。

地方独自課税の良いところの一つは、県民など地元の人々の意見が反映されやすいことではないだろうか。いろいろな人の自然に対する思いが、森林環境税を通して実現していけばよいと思う。

今までの歴史の中で、その時代に合った税の納め方があり、現代ではさまざまな問題の改善に向けての新しい税が作られてきていることがわかった。これからも税についての理解を深め、その使われ方などに関心を持っていきたい。

